

大阪市環境審議会 第1回  
「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画推進検討部会 議事要旨

日 時：令和7年9月26日（金）10時00分～12時00分  
場 所：環境局 第1会議室  
議 題：  
（1） 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の中間見直しについて  
（2） その他

出席者：

（委員）貫上会長、藤田委員、島田委員、中谷委員  
（事務局等）金子環境管理部長、上原企画課長、阿部土壤水質担当課長 他

配付資料：・次第  
・配席図  
・大阪市環境審議会「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画推進検討部会 委員名簿  
・大阪市環境審議会規則  
・資料「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の中間見直しについて

【議事要旨】

・資料により「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の中間見直しについて、事務局が見直しの内容や方向性等について説明を行い、意見をいただいた。

【委員意見】

計画の目標について

○市民満足度の目標として、アンケート結果に加え、他の指標を含めて評価することは理解する。今回設定する市民満足度の評価について、5つの指標の達成度合で判断することであるが、5つの指標が市民満足度に関連することが分かるように計画に記載する必要がある。

指標値について

○水環境に関連するイベントの回数や人数については、大阪市が把握している以上に様々な場所で行われており、人数も多いと思われる所以、量の把握でなく、質について検討する必要がある。

○海洋プラスチックの削減と水質の向上が繋がっていることを、イベント等の啓発事業で市民に理解してもらえるように取り組んでいく必要がある。

○クルーズ船の利用者が横ばいとなることは理解するが、イベントの人数を増やす取組みを

行うのであれば、それが分かるように記載する必要がある。

- 令和6年度末までに達成している指標「海外への情報発信や事業展開の機会を創出した件数」の新指標値として、2030年度までに「200件」とすることについては問題ない。これまでの取組みにより、事業展開の成立した事例や企業同士の繋がりができた事例等がある場合、計画に記載する等の工夫を行い、情報発信の場の提供だけではないことが分かるようにした方がよい。
- 令和6年度末までに達成している指標「海洋プラスチックごみの削減等に関わるステークホルダー間の連携を創出した件数」の新指標値として、2030年度までに「50件」とすることについては問題ない。これまでのステークホルダー間の連携の内容や実績については、計画に記載することにより、取組みの成果を発信した方がよい。

#### その他の取組について

- 給水スポットの水色スイッチは、「水で人の行動変容を変えていく」という意味があり、現在、市内に6ヶ所設置されている。この取組みについて、計画にコラム等で記載してはいかがか。
- 公益財団法人国際エメックスセンターは、瀬戸内海などの世界の閉鎖性海域の環境保全の問題を解決するため、国際的に総合的な交流を行うことを目的として作られた組織であり、その取組みには、水環境に関する教育プログラムや研究を発表する場等があるので、このような団体などと連携することを検討してはいかがか。
- 2025年大阪・関西万博の取組み成果については、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの内容が十分に組み込まれていない印象を受けるため、陸域からのプラスチックごみの海洋への排出や海洋への汚染につながる排出対策についても記載した方が良い。フードトラックのリユース食器などの課題は、今後の大規模イベント等に活かすことが重要であることから、取組みの結果と分析についても計画に記載してみてはいかがか。
- プラスチック資源の一括収集の取組みについて、このようなプラスチックごみ削減の取組みが、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの計画目標に繋がっていることを市民に知ってもらう必要がある。
- 魚類調査について、城北川の追加は妥当である。大和川の平野区辺りの上流部は淡水域であり、下流の海側近くは汽水域となる。アユも定期的に確認されており、上流と下流では異なる調査結果になるため、下流も調査地点として追加すべきである。

#### アンケート調査について

- 指標の1つである「水辺施設を利用した市民の割合」のアンケートの調査方法は、施設を利用したことがある人が多いほど良い評価としている。しかし、いろいろな水辺施設があることを知ってもらうことに意義がある。水辺施設と居住地との距離的な問題や個人の行動特性によって利用の有無が左右されるため、水辺施設を「知っている」または、「知らない」で評価すべきである。
- 各種イベントや講座において実施しているアンケートの結果及びアンケートに自由欄（感

想を書く欄)があればその内容を示してもらいたい。

- 目標である「市民満足度」を算出するため、アンケート調査で、「①水のきれいさ（見た目やにおいなど）、②水辺に生息する生き物の豊かさ、③水辺空間に対する親しみやすさ、④水辺空間でのイベント等でのぎわい」について回答してもらっているが、市民が何を求めているかを把握するための基礎データとする必要があるのではないか。
- 市民が何を求めているかということは、時代によって変わってくるため、アンケートを毎年でなくても良いので、継続して実施すべきである。
- 大阪の状況を示す客観的なデータを記載し、もう少し広報・啓発を意識した上で、海洋プラスチックの削減と水質の向上が繋がっていることを知ってもらうようなアンケートにすべきである。